



そしてアメリカの軍事力を非常に危険なものにしているのは、この国を経営している人々が、恐ろしく鈍感で、おのれのみ正しとする思い違いと無知で一杯の、愚か者だということである。

アメリカのニュース機関 NBC は、トランプ政権は、朝鮮人民民主主義共和国に、先制軍事攻撃を加える用意ができていと報道している。一方、北朝鮮は、アメリカのどんな攻撃をも封ずる用意があり、アメリカであろうとその同盟国であろうと、ピョンヤンが挑発的攻撃とみなすものに対して、核攻撃を加えると言っている。

今週は北朝鮮にとって、建国者金日成の生誕 105 周年という大きな行事が行われた。彼の孫で現リーダーの金ジョン・ウンは、国連安保理決議を破って、この機会を“祝して”6回目の地下核兵器実験を行う気になるかもしれない。しかし忘れてならないことは、このような北朝鮮の行動は“実験”にすぎず、戦争行為ではない。

だが否定できないことは、トランプ大統領が“無敵艦隊” (armada) と呼ぶ、朝鮮半島沖のワシントンによる核戦力の結集は、北朝鮮指導部から見れば侵略行為であることだ。北朝鮮に向かって軍隊を進めることによって、アメリカの方が挑発していると言うことができる。先週、トランプ政権がシリアに対して行った 59 発のクルーズ・ミサイルの発射は、明らかな国際法違反で、ワシントンが合法性など関係なく、好きな時、好きな場所で、大規模な軍事力を用いる意志をもっているという、間違いなく計算された暴力行為だった。

その後、数日前に、アメリカが、核でない最大の爆弾——MOAB、すなわち“すべての爆弾の母”——をアフガニスタンに落としたことは、ワシントンに課せられたすべての法的規制を破るだけでなく、彼らが、一方的・先制的に行動する用意があるという信号を北朝鮮や他の国家に送る、計算されたもう一つの行動だった。

ロシアや中国など、太平洋地域のすべての強国は、朝鮮半島をめぐる一触即発の緊張に対し、交渉による解決を求めている。しかし、対話の道を開くことを拒否している唯一の強国はワシントンである。今週、モスクワを訪問した米国務長官レックス・ティラーソンは、近未来に朝鮮危機を解決する対話はないと言った。なぜないのか？ それを決めるアメリカとは何者なのか？

トランプは、“北朝鮮問題”を独力で軍事力によって解決すると言っている。このような精神構造が問題である。このならず者国家は誰なのか？

4,700 の使用可能な核爆弾をもつという米軍（ロシアは、軍事力統制協会によれば 4,500）よりもっと心配なのは、アメリカの支配者の愚かさである。

上に引いた NBC 報告によれば、ホワイトハウスは、「もし政府高官が、北朝鮮は核兵器実験をずっと続ける意図があると確信した場合には」ピョンヤン攻撃を命令する準備をしている。これは“実験”に釣り合う反応とは言えない。

にもかかわらず、本当に不安なのは、ここで使われている「もし米政府高官が確信した場合には」という言葉である。トランプの国際法に対する軽視の態度や、米情報局のひどい水準を考えるなら、北朝鮮に対するアメリカの先制攻撃は、大いにあり得る。

トランプの最近のシリア攻撃は、ワシントンの政治・軍事の高官たちの定まらぬ、向こう見ずな性格を証明している。

メディア報道は、トランプが“トマホーク”ミサイルでシリアを攻撃する決心をしたのは、4月4日のシリアでの化学兵器攻撃と言われるものについての、Fox News のフィルムを見たことに依拠するものだ、と言っている。それだけでなく、この米大統領は、彼の娘イヴァンカが、化学兵器事件と言われるもので子供が死ぬ様子を見て、感情的反応を起こしたことに動かされて、この攻撃を決心したのだと言っている。

シリアの化学兵器事件が、西側に援助されたテロリスト聖戦士によって行われた、ニセ旗であると信ずべき十分な理由がある。にもかかわらず、トランプ政府は、シリア政府がこの化学兵器攻撃をやったという非常に浅薄な主張に基づいて、その国に殺人的攻撃を仕掛けたのである。

トランプの移り気なエゴが高じて爆発的な性質を帯びた。現在、彼は数週間前から“北朝鮮問題の面倒をみる”と主張している。アメリカの核攻撃力の朝鮮半島沖への結集が、間違ったアメリカの情報と一体となり、そこへ愚かな自己中心的な総司令官が、愚かなアドバイザーに取り囲まれることによって、戦争への論理を押し通そうとしている。

一方において、北朝鮮の指導者たちは、トランプの最近のシリア攻撃に注目している。それは彼らが、先制行動に出るかもしれないという警告である。アメリカの同盟国、韓国の首都ソウルは、北朝鮮の火砲力の十分な範囲内にある。2千万以上の人口をもつソウルは、もし攻撃されれば大惨事となる。ひとたびミサイルが飛び始めるなら、世界は地球戦争に突入し、中国をもロシアをも、アメリカとの核対決に引き込む可能性が大きい。この恐ろしい結果は不可避ではない。韓半島の危機に対する対話と、交渉による政治的解決は、完全に可能であ

る。2つの韓民族国家、日本、中国、ロシア、それにアメリカは、もし両サイドが、何十年も昔からの軍事的緊張の平和的解決のために合意するなら、繰り返す問題は解消するだろう。しかしそのような会談に取り組むためには、責任はアメリカにある。アメリカはそれを拒み、それどころか軍事的決着を主張している。

問題を非常に危ないものになっているのは、ワシントンの頑固で傲慢な愚かさである。トランプは、これまでの政権以上に向こう見ずであり、ワシントンの思い上がりの最も新しい見本である。

トランプの、先週シリアで見せたような、また今週のアフガニスタンでの大量破壊兵器の乱暴な使用で見せた、一方的軍事侵略にたやすく走る傾向は、驚くべきものである。

しかしそれ以上に驚くべきことは、アメリカの“情報”の欺瞞的性格と、アメリカの政治的“リーダーシップ”である。もしアメリカが、化学兵器についての非常に疑わしい主張に基づいて、その上、それほど騙され易く、唆され易い大統領の下で、クルーズ・ミサイルをシリアに発射することができるとしたら、世界は間違いなく崖っぷちへ追い込まれている。

アメリカの核兵器よりもっと危険なのは、アメリカの支配者たちの矯正しようもない良心の欠如である。これらは72年前に日本へ原爆を落とさせた、自己正当化と犯罪的な人間軽視を示した、あの同じ者たちである。それは怪物的なジェノサイド行為であり、彼らはそれをいまだに“正しかった”と言っている。

世界が、アメリカの軍事的狂気によって人質に取られているということは、実に忌むしいことである。そしてそれは、第2次大戦以来、70年以上に及んでそうだった。そこで質問：——このアメリカの狂気は、安全に信管を抜くことができるだろうか？ そして平和な終わりへと誘導することができるだろうか？